

このような相談に応じ、技術援助を通して取り組んでいくことも、指定都市精神保健福祉センターの重要な役割と思われる。このようなケースの相談にあたっては、各センターが試行錯誤しつつ行っているのが現状であり、今後経験を積み重ね、精神保健全体を視野に入れた新たなプログラムを開発していく必要があると思われる。

また、東京都では、痴呆の疑われる高齢者や複雑困難ケースへの訪問活動に取り組んでいて、今後は、複雑困難ケースに対する危機介入への援助を求められることが多くなると予想している。精神保健福祉センターでは、保健所と違い家庭訪問を行っているところは少ないが、今後このようなケースに対しての訪問活動の必要性について検討していくことも必要である。

## 2 技術援助

ストレス、心の健康、ノーマライゼーションなどに対する関心が高まる中で、保健所、保健センター、福祉部門、社会復帰施設、学校、労働部門などの関係機関に対する技術援助も今後さらに重要になるとの意見が多かった。また、技術援助に重点的に取り組んでいるセンターもあった（北九州市）。その場合、他の分野を所管している市の部局との連携や、道府県が所管している分野（高校、労働部門、警察）との連携も重要な課題である。

広島市からは、豪雨災害被災者への心のケアへの取り組みについて報告があった。大都市においては、自然災害、事故、犯罪によって多くの人々が巻き込まれる可能性が高く、被災者や被害者も多くなる。日頃からこのような災害時の心のケアについて、

支援方法を検討しておく必要がある。

## 3 教育研修

教育研修では、精神保健福祉士の誕生や精神保健に関するカリキュラムの重視などもあって、都市部では、学生の実習希望が多くなっている。将来の人材の育成は、精神保健福祉活動の推進のために欠かせないことは確かだが、精神保健福祉センターだけで引き受けるのには、他の業務との関係もあって限界がある。精神保健福祉の実習のあり方について、もう少し幅広い立場で議論できるように提言していく必要があるのではないかと。

## 4 組織育成

組織育成については、地域社会のつながりが少なくなる中で、自助グループの必要性を強調する意見があった。また、社会復帰施設（法人）との合築施設の場合は、建物管理や使用に際して調整を要することがあるとの意見があった。

指定都市においては（札幌市、京都市）、各行政区で精神保健ネットワークを作り上げていく実践が始まっている。市民が身近に精神保健や精神障害について学習し、実際に精神障害者と交流することは、ノーマライゼーションを進めていくうえできわめて重要なことであると思われる。ネットワーク作りは、今後大きなテーマとなるのではないかと。

## 5 組織、人員

暫定的な施設で事業を行っているところ（札幌市）、平成14年に向けて検討中のところ（川崎市）、平成14年に向けて改築が

必要なところ（京都市）など、建物の整備、組織改正や人員増を必要とするところが多い。大都市特例の施行により、4ヵ所の指定都市精神保健福祉センターが開設されたが、財政難の中ではあるが、今後、いかに充実していくかが課題である。

## 6 道府県センターとの連携

府県のセンターとすでに連絡会などを設けているところ（京都市、広島市）があり、都市部での事業を有効にかつ効率的に行うために事業の共催なども含めて検討していく必要があるのではないか。また、宮城県のように地理的にも仙台市から離れて県のセンターが置かれるところもある。今後は、このような場合が増えていく可能性もある。

## E. 結論

本研究においては、まず指定都市センター開設後ほぼ3年を経た時点での各センターの現状を明らかにした。その結果からは、各センターが、精神保健福祉センター運営要領に基づいて着実に成果をあげていることが示された。

同時に、従来の精神科医療の枠組みでは対応しにくいところの健康上の問題のあるケースへの対応と精神保健全体を視野に入れたプログラムの開発、訪問活動の必要性

の検討、他の分野を所管している市の部局や道府県の部局を含めた技術援助と連携、災害時の心のケア、学生を含めた教育研修のあり方、自助グループの育成、ネットワークづくり、センター組織の充実と人員の確保、道府県センターとの連携と役割分担など、いくつかの課題も明らかとなった。

今後、事業を進めていく中でこれらの課題に取り組んでいくと同時に、引き続き研究を継続することによって、その結果を報告書としてまとめる必要がある。また、今後の研究では、各都市における精神保健、精神医療、精神障害者福祉における重要課題をそれぞれ明らかにし、センター毎に分担して重点的に課題や調査研究に取り組み、今後の各都市のセンター事業ならびに今後新しく開設される指定都市の精神保健福祉センターに還元していく必要がある。

これらの課題は、平成12年度の研究で取り組むこととしたい。

## F. 研究発表

なし

## G. 知的所有権の取得状況

なし

表1 指定都市の概況(平成10年10月現在)

	精神保健福祉センター	人口(万人)	面積km <sup>2</sup>	保健所数	保健センター数
札幌市	設置	180	1121	1	10
仙台市	設置	97	788	5	6
千葉市		87	272	1	6
横浜市		335	434	18	0
川崎市	精神保健相談センター	123	144	7	3
名古屋市	設置	215	326	16	0
京都市	設置	146	610	11	支所3
大阪市		260	221	24	0
神戸市		142	549	1	9
広島市	設置	111	741	1	8
北九州市	設置	102	483	1	7
福岡市		128	338	1	
東京都	設置	1181			

(資料1) 札幌市精神保健福祉センターの機能の充実(事業概要)

1.精神保健福祉相談

項目	平成9年度	平成10年度
電話相談	2,171件	2,358件
来所相談(診療を含む。)	859件	797件

2.技術指導・技術援助

コンサルテーション	76回	81回
-----------	-----	-----

3.普及啓発

講演・講義	56回 受講者延べ3,633名	57回 受講者延べ5,077名
「酒害予防とケア」市民のつどい	1回 参加者157名	1回 参加者(教育関係者主体)50名
こころの健康まつり	1回(1,000名)	1回(1,100名)
広報資料の作成	精神保健福祉センターご案内 2,000部 こころの健康だより(年4回) 各1,000部	精神保健福祉センターご案内 2,000部 こころの健康だより(年4回) 各1,000部 精神保健福祉センター所報 300部 精神保健福祉マップ 500部

4.組織育成

精神保健・家族のつどい	1回(49名)	1回(31名)
精神障害者家族教室	1回	7回
精神障害回復者小規模共同作業所研修会	1回	1回
うつの会		11回
関係会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域精神保健福祉連絡会(2区)</li> <li>・女性への暴力対策会議</li> <li>・少年サポートチーム</li> <li>・北海道被害者支援連絡会議</li> </ul>	

5.教育研修(精神保健福祉相談員等)

精神保健福祉関係職員教育研修	4回(17日間)	4回(12日間)
----------------	----------	----------

6.デイケア調査研究事業等

デイケア調査研究事業		週3回(定員12名)
デイケア家族のつどい		6回

平成10年度 札幌市精神保健福祉センターの相談状況

1 電話相談

(単位: 件)

(1) 相談者内訳

性別	本人	家族	近隣	その他	縣外	計
男	525	114	0	28	80	747
女	676	740	8	59	128	1611
計	1201	854	8	87	208	2358

(2) 地域別

市内	2198	市外	160	計	2358		
中野	238	北野	337	東野	196	昭野	182
野	89	野	384	野	64	南野	209
西野	201	野	142	野	156	計	2198

(3) 相談時間

	15分未満	15分~30分未満	30分~60分未満	60分以上	計
件数	1330	670	275	83	2358
%	56.4	28.4	11.7	3.5	

(4) 職業別

	小中学生	高大学生	有職者	主婦	無職	関係機関	その他・不明	計
件数	2	132	330	722	639	207	326	2358
%	0.1	5.6	14.0	30.6	27.1	8.8	12.8	

(5) 年齢別・性別

	20歳未満	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上	縣外	不明	計
男	18	339	85	44	66	44	13	81	57	747
女	12	249	320	311	298	119	29	128	145	1611
計	30	588	405	355	364	163	42	209	202	2358

(6) 主訴別

主訴	診断 (印象)				特定の対象者がない問い合わせ	計	%
	精神病圏	精神病以外の精神疾患	精神疾患に入らぬもの	その他・不明			
病気の問題	278	115	1	304	0	698	29.6
性格上の問題	0	3	1	13	0	17	0.7
発達教育上の問題	0	0	0	4	0	4	0.2
行動上の問題	5	93	5	221	1	325	13.8
対人関係の問題	28	30	12	106	0	176	7.5
精神保健上の知識の問題	198	81	10	201	10	500	21.2
社会資源の問題	141	21	5	67	6	240	10.2
その他	248	24	11	94	21	398	16.9
合計	898	367	45	1010	38	2358	
%	38.1	15.6	1.9	42.8	1.6		

2 来所相談

(1) 来所者内訳

初回来所者	件数
本人が来所	152
家族等のみが来所 (本人来所せず)	148
合計	300

(2) 援助内容 (実数)

内容	件数
診察	11
相談助言等	289

(3) 性別

男女別	人数
男	134
女	166

(4) 年齢別

年齢	20未満	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70以上	縣外	不明	計
人数	64	87	65	34	21	16	13	-	-	300

延べ来所件数
797

精神保健福祉センター実態調べ

11.9.22

		札幌市	仙台市	京都市	広島市	北九州市	千葉市	名古屋市	福岡市
開設年月日		平成9年 4月1日	平成9年 4月1日	平成9年 4月1日	平成5年 4月1日	平成9年 4月1日	平成12年 度予定	平成12年 度予定	平成14年度 3月開設予定
構造階数		鉄筋3F	鉄筋2F	鉄筋5F	鉄筋	鉄筋3F	鉄筋	鉄筋	
建物 延面 積	建物全体	1,190.06㎡	1,474.44	2,370.32	13,726.2	1,034.30	3,894.00	10,082.0	
	センター部分	79.50	1,474.44	1,773.28	2,775.73	1,034.30	1,558.00	850.0	
単独・合同の別		合同	単独	合同	合同	単独	合同	合同	
合築施設の種別		札幌市保健所		精神科デイ・ケア 通所授産施設	広島市保健所 看護学校 市保健センター		複読室, 通所授産施設等	老人福祉センター 特養ホーム 保健所等	
デイケアの有無 (定員)		有 (12)	有 (60)	有 (50)	有 (70)	無	予定無	予定有 (30)	
職 員 数	医 師	常勤	1	3	2	3	3	未定	未定
		非常勤				5			
	精神ソ シアルワ ーカー	常勤	2	2		4			
		非常勤			2				
	臨床心 理技術 者	常勤		2	2	2	2		
		非常勤		2					
	保健婦 (士)	常勤	1	2		6	2		
		非常勤							
	看護婦 (士)	常勤		2	1				
		非常勤		1					
	作業療 法士	常勤	1	2	2	2	2		
		非常勤							
	その他	常勤	2	4	6	4	3		
		非常勤		4					
合 計	常勤	7	17	13	21	12			
	非常勤		7	2	5				
総 計		7	24	15	26	12			

事業名	内 容	備 考
精神保健福祉相談	1. 個別相談 精神保健福祉に関するすべての相談(予約制) 2. 集団療法など ① 不登校児の親グループミーティング ② アディクション集団療法 ③ アルコール家族ミーティング 3. その他相談に関すること ① 新規ケース受理会議 ② ケース会議 ③ 各集団療法ミーティング報告会 4. 電話相談「はあとライン」	月2回(第1・第3金 午後2時) 月2回(第2・第4火 午後2時) 週1回(毎木午後)福祉プラザ  週1回(月 午後8:50~11時) 月1回(第3金 午後10~12時) 週1回(金 午後8:50~10時) 月~金(10~12時:13~16時)
教育研修	1. 精神保健福祉基礎講座(関係職員) 2. 思春期・嗜癖問題研修講座 3. 専門職員研修講座 4. 実習生・見学の受入れ	5回 8回 5回
技術援助	1. 精神障害者社会復帰施設総合調整 2. その他の精神障害者利用施設支援 3. 困難事例への助言・支援 4. 精神保健福祉相談指導 5. 講師派遣	精神障害者生活訓練施設・授産施設・生活支援センター 小規模作業所・グループホーム 各区保健福祉センター等 青葉保健福祉センター 関係機関
普及啓発	1. 精神保健福祉講座(紙・趾類・聴談) 2. メンタルヘルス・ボランティア養成講座 3. メンタルヘルス・ボランティアフォローアップ 4. アルコール問題に関する普及啓発(高校生等) 5. こころの健康フェスティバル・デイケア祭 6. 定期刊行物の発行 ① 研究紀要(年1回) ② センターニュース(年3回) 7. 啓発用パンフレット作成 8. 図書貸出	2回(8月予定) 5回(8月~9月予定) 月1回  10月  7月末・11月末・3月末発行
調査研究	1. 精神保健福祉相談等に関する調査研究 2. 精神障害者社会復帰に関する調査研究	
組織育成	1. 心の健康づくりに関する関係機関連絡会議 2. 精神障害者社会復帰に関する関係機関連絡会議 3. 心の健康づくり関連講座企画連絡会議 4. アルコール問題対策連絡会議 5. 精神障害者家族会・当事者グループへの支援	5月予定  6月予定 2月予定
精神科デイケア	生活訓練課程 作業訓練課程 ・ スポーツ大会(メンタルヘルス・ネットワーク in 誠) ・ 合同野外活動 ・ 家族懇談会 ・ 家族教室 ・ 緑樹会(OB会)	通所日 月・火・木・金  5月19日(金) 月 日( ) 1回/2ヶ月 5回シリーズ 2回/月 月1回

分類	事業名	目的	内容	対象	実施状況
精神保健福祉相談	診療 精神保健福祉相談(予約制)	鑑別診断・継続治療等 市民の心の健康の保持・増進を支援する	精神科医による診察 心の悩みについてのあらゆる相談に対応	市民 市民	(延診案件数1,324人) 新規実相談 168人 継続実相談 178人 延相談 3,073人 開催日(月2回) 開催回数 23回 参加実人員 14人 参加延人員 76人
	アディクション グループカウンセリング (隔週)	精神保健福祉相談に来所した者の内、薬物依存等の嗜癖問題を抱えている者に対し専門的かつ継続的に関わり、家族及び本人に対する集団療法を行い回復への支援を図る	医師等の専門家の指導を受けながら実施	市民	
	アルコール家族ミーティング (週1回)	アルコール問題に関する本人及び家族への集団療法に協力する	医師等の専門家の指導を受けながら実施 各区保健福祉センター職員も参加	市民	開催日(毎週木曜日) 開催回数 49回 参加実数 51人 参加延人数 475人
	精神障害者法律相談(年5回)	精神障害者の権利擁護のため	弁護士による専門相談	本人・家族・関係職員	4月・6月・8月・10月 12月・2月 31人
	不登校児の親のミーティング (隔週)	不登校児の親の精神的、情緒的安定と状況への適応力を高め	ケースワーカーによるグループミーティング	家族	開催日(月2回) 開催回数 23回 参加実人員 11人 参加延人員 77人
教育研究	精神保健福祉講座(5回) (新人研修他)	精神保健福祉に関わる市及び関係団体の職員を対象に精神保健福祉に関する基本的な諸知識を提供する	精神保健福祉の現状と課題 精神保健福祉概論 各機関の活動状況 精神医学概論等	保健福祉センター・社会復帰施設・デイケアセンター等 新・転任職員	5月～6月実施(新人研修) 5回コース 受講者 参加実人員 27人 参加延人員 86人
	嗜癖問題研修(9回) (思春期問題研修と重複)	対応が困難なため放置されがちなアルコール、薬物等の依存症に関し、適切な対応が出来るよう諸知識を提供する	嗜癖問題とは 嗜癖と依存 嗜癖と家族 症例検討等	保健婦・養護教員・精神保健福祉相談員・ケースワーカー・カウンセラー・ヘルパー	7月～3月実施 ※思春期問題・嗜癖問題研修講座として9回実施 受講申込者 297人 受講者延数 715人
	思春期問題研修(9回) (嗜癖問題研修と重複)	主に養護教諭などの教育関係者を対象に、不登校や摂食障害、非行など思春期の子供達の問題について、対応のあり方について知識と症例検討などを通して多面的、多水準的に提供する。併せて、相談機関と教育機関とのネットワーク形成も図る	思春期のこころ 不登校とカブリッ 不登校をどう捉えるか 一学校現場から一いじめ問題の本質と学校の対応 非行と学校教育現場と相談機関の連携のあり方等	養護教諭等教育関係者・保健婦・カウンセラー・ケースワーカー・精神保健福祉相談員	
	専門職員研修(5回) 実習生の受入れ	精神保健福祉に携わる関係職員を対象に、より専門的で実践的な問題への対応の方法や知識の拡充を図る センターの活動体験を通して後進者の育成を図る。	薬物依存、発達障害、ケースマネジメント、リハビリ関係等 講義 センターの業務に参加	保健福祉センター・病院・福祉施設・デイケア職員等 各大学・専門学校・社会復帰施設職員等	7月～3月実施 開催回数 4回 参加者合計 170人 受入機関 10機関 実習生実人員 201人
調査研究	精神保健福祉相談及び精神障害者の社会復帰に関する調査研究	諸問題を検証し効果的な業務の推進にあたる	「不登校児の親のグループミーティング」 「精神障害者社会生活評価尺度」 「就労援助活動としての集団アルバイト導入について」 「仙台市精神保健福祉総合センターにおけるアディクショングループセラピーについて」 「精神科デイケア修了者の転帰と生活障害との関連について」 「Involvement In Child Protection Work At A Mental Health Centre In Japan」 「精神科デイケア修了後に就労に至った回避性人格障害の一症例の経過について」 「精神科デイケア修了者の転帰と生活障害との関連について」 「仙台市精神保健福祉総合センター(デイケア部門)と保健所との連携のためのマニュアルづくりの検討」 「コラージュ制作過程のプロトコル分析」 「コラージュ療法の基礎的研究」		
技術援助	精神障害者社会復帰施設 総合調整 精神保健福祉相談指導 講師派遣業務(随時) 困難ケース指導	精神障害者の社会復帰が円滑に行われるよう指導及び調整 区保健福祉センターの精神保健福祉相談事業の支援 関係職員への精神保健福祉に関する基本的な知識・情報の提供 ケース対応が円滑に行われるよう、関係機関職員に対して支援する。	顧問の派遣・調整会議への参加・業務支援 定例相談日に医師を派遣 医師・精神保健福祉相談員・臨床心理士等の派遣 医師・精神保健福祉相談員・臨床心理士・保健婦・デイケア担当等	精神障害者生活訓練施設 精神障害者授産施設 市民・職員 関係機関 保健福祉センター・学校・社会復帰施設等	作業所並びに生活訓練施設の調整会議、生活訓練施設入所者の診察及び指導等 29回 青葉保健福祉センター 12回 医師・精神保健福祉相談員等を派遣 13件 指導件数 196件

分類	事業名	目的	内容	対象	実施状況
普及啓発	こころの健康フェスティバル	一般市民に精神保健福祉に関する情報を提供し、こころの健康保持向上を図る	講演会・シンポジウム コンサート・パネル展 デイケア祭等	市民	11月20日～27日まで開催 ・パネル展(10.20～24) ・講演会 (75人) ・シンポジウム (65人) ・コンサート (121人) ・デイケア祭り (154人)
	精神保健福祉講座	同上	講演会等	精神障害者家族・民生委員・関係者 市民・ボランティア	・保護者問題を考える 参加者 150人 開催2回参加者延 170人
	こころの健康づくり公開講座	同上	講演・シンポジウム	市民	開催回数 6回 参加実人員 66人 参加延人員 346人
	メンタルヘルスボランティア養成講座	市民自ら主体的にこころの健康に取組、障害者と共に安心して生活できるような地域づくりを目指すため	講義・グループワーク・実習等	市民	開催回数 1回 参加者 30人
	メンタルヘルスボランティア・フォローアップ研修				
	講師派遣業務	市民や企業体職員を対象にした精神保健福祉に関する情報を提供する	講演等職員を派遣	市民センター・事業所・家族会等	医師・精神保健福祉相談員・臨床心理士・保健婦等を派遣 実施回数 14回
	ライブラリーの公開・貸出	精神保健福祉に関する情報を提供し市民の精神的健康の保持向上と業務の推進を図る	図書・ビデオソフト貸出等	関係職員・市民	
啓発	定期刊行物の発行 研究紀要 (年1回) はあとぼーと通信 (年3回)	精神保健福祉総合センターの活動及び精神保健福祉に関する情報の提供	研究紀要・はあとぼーと通信	関係機関・市民	・研究紀要 500部(8月発行) ・はあとぼーと通信 3号 5,500部(7月発行) 4号 5,000部(11月発行) 5号 5,111部(3月発行) ・精神保健福祉総合センター ・精神科デイケア・精神保健福祉相談・各種集団療法 ・精神障害者の法律相談等
	啓発用のパンフレット 5種類を作成	精神保健福祉に関する情報を分かりやすく広報する	テーマ毎にパンフレット作成	関係機関・市民	
組織育成	精神障害者社会復帰に関する関係機関連絡会議	情報交換と各関係機関の相互理解を深めネットワークの形成を図る。	各関係機関の活動状況 各関係機関の連携等	保健所・病院・社会復帰施設・職業安定所・福祉事務所等	7月29日開催 ・30機関 55人参加
	心の健康づくりに関する関係機関連絡会議	同上	同上	保健所・病院・クリニック等	7月1日開催 ・20機関 37人参加
	アルコール問題対策連絡会議	アルコール問題について関係諸機関が共通の理解に立ち、その対策の円滑な推進と、アルコール依存症者の社会復帰をめざし、関係諸機関の連携を図る	各関係機関における実態把握 関係諸機関の連携に関する事	医師会・警察・県精神保健福祉協会・県精神保健福祉センター・家庭裁判所・教育局・市立病院区保健福祉センター	2月16日開催 ・10機関 18人
	社会復帰施設・家族会及び当事者等への支援	関係諸団体が主体性をもって運営していくために必要な助言、援助を行う	講師派遣・例会及び諸活動に参加等	精神障害者家族会 当事者グループ等	精神障害者家族会、患者会等の例会等に参加 48回
精神科デイケア	作業訓練課程	病状が安定し就労を目標とする通所者に対し、職業訓練・作業体験などの就労援助活動を行う	プログラム指導、作業訓練、職場・作業所実習、集団アルバイト、就労援助	当センターの生活訓練課程を体験し就労意欲のある者	通所者実人員 13人 延人員 1,155人
	生活訓練課程	集団活動を通して、自発性や、対人関係能力を養い、生活技能を身につけます	スポーツ、料理、ミーティング、スキル等		通所者実人員 46人 延人員 3,164人
	家族懇談会	精神障害者に対する知識を得、理解を深めるとともに、家族の対応、社会資源の活用法などを学ぶ	家族同士、又はスタッフとの話し合い	通所生の全家族	2ヶ月に1回 6回 参加者延人員 88人
	家族教室	精神障害者の知識や、家族の対応、社会資源などを学ぶ	勉強会	通所生のうち、精神分裂病の告知を受けた家族で参加を希望する者	4回シリーズで実施 参加者実人員 10人 参加者延人員 26名
	緑樹会 (OB会)	終了者同士の交流を図る	昼食会や話し合い	デイケアを終了したメンバー	毎月1回 案内送付人員 約150人 参加者実人員 20人 参加者延人員 87人

# (資料3) 川崎市精神保健相談センター

## I センター概要

- 1 **業務** 精神保健相談センターは、精神保健に関する相談、指導及び診療を行い並びに精神保健に関する知識の普及及び調査研究を行う。(川崎市精神保健相談センター条例 第3条)
- 2 **職員** 医師(所長)1、一般事務職1、看護職1、社会福祉職2、非常勤医師1、非常勤看護職1

## II センター事業 (川崎市精神保健相談センター条例施行規則第3条)

### 1 精神保健福祉相談 (個別援助)

精神保健相談件数

		個別援助											
		来 イン テ ーク	所 内 相 談	電 話 相 談	訪 問 指 導	32 条 処 理 件 数	手 帳 申 請 件 数	関係機関紹介					
								保 健 所	医 療 機 関	福 祉 機 関	自 助 G	家 族 会	そ の 他
10 年 度	総数	54	1283	1126	15	105	17	76	159	36	34	18	26
	新構	46	103	313	-	29	3	67	130	15	22	15	22
	再構	8	1180	813	15	76	14	9	29	21	12	3	4
9 年 度	総数	62	1264	1152	35	110	16	76	84	27	33	5	18
	新構	61	113	240	-	36	2	67	65	20	22	5	13
	再構	1	1151	912	35	74	14	9	19	7	11	-	5

### 2 診療

(1)精神保健相談センター外来診療・外来診療日数及び患者数

	診療日数	新患実人数	再来実人数	年間受診者延べ数	一日平均受診者数
平成10年度	98日	57名	174名	3281名	約33名
平成9年度	96日	72名	163名	3062名	約31名

(2)患者の性別及び年齢(実人数)

		総数	男	女	0-15歳	16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	不明
10 年 度	総数	231	151	80	1	1	14	26	50	74	56	9	-
	新件数	57	34	23	-	-	6	9	9	21	8	4	-
	再来数	174	117	57	1	1	8	17	41	53	48	5	-
9 年 度	総数	235	165	70	1	2	18	32	56	65	51	10	-
	新件数	72	50	22	1	1	10	17	16	13	11	3	-
	再来数	163	115	48	-	1	8	15	40	52	40	7	-

(3)診断名 (実人数)

		総 数	精 神 分 裂 病	非 定 型 精 神 病	境 界 例	神 経 症	不 眠 症	不 安 神 経 症	心 因 反 応	躁 うつ 病	う つ 病	う つ 状 態	抑 うつ 状 態	て ん か ん	ア ル コ ー ル 症	覚 醒 剤 精 神 病	そ の 他
10 年 度	総 数	231	62	4	1	5	10	3	24	5	5	10	-	3	80	4	15
	新 件 数	57	8	-	-	2	7	2	1	1	1	4	-	1	21	-	9
	再 来 数	174	54	4	1	3	3	1	23	4	4	6	-	2	59	4	6
9 年 度	総 数	235	54	6	2	8	7	5	29	4	3	6	3	5	87	4	12
	新 件 数	72	6	1	-	5	5	3	6	1	-	4	1	3	27	2	8
	再 来 数	163	48	5	2	3	2	2	23	3	3	2	2	2	60	2	4

3 技術援助・教育研修事業

(1)講演

- ① 4月24日 川崎市新規採用職員研修会 講師 (社会福祉職)
- ② 6月23日 川崎市海外派遣研修会 講師 (社会福祉職)
- ③ 6月27日 川崎断酒新生会独身者会宿泊研修会 講師 (社会福祉職)
- ④ 10月22日 精神障害者地域作業所等職員研修会 講師 (社会福祉職)
- ⑤ 10月30日 大正大学アルコール予防教育 講師 (社会福祉職)
- ⑥ 11月21日 田島健康ランチ職員研修会 講師 (社会福祉職)
- ⑦ 2月26日 アディクションセミナーシンポジウム 講師 (社会福祉職)

(2)教育

神奈川県立衛生短期大学 講師 (医師)

(3)作業所職員研修事業

川崎市精神障害者作業所連絡協議会と共同で企画・運営

(10年度4回延人数 83名)

(9年度5回延人数107名)

①平成10年7月29日(水)「精神病への理解と職員のかわり方」 汐田・脳とこころのクリニック 野末 浩之氏	22名
②平成10年10月22日(木)「アディクション問題からまなぶこと」 精神保健相談センター 山中 達也	19名
③平成10年12月18日(木) 「調剤リハビリテーションセンターでの就労援助活動の流れについて」 調剤リハビリテーションセンター 尾崎 幸恵氏 「ハローワーク利用の実際について」 川崎北公共職業安定所 高木 信雄氏	22名
④平成11年2月19日(金)「川崎市の精神保健福祉の歴史」 日本女子大学教授 牧野田恵美子氏	20名

・市精連との打ち合せ回数8回

(4) 栄養教室 (新規)

①平成10年11月5日(木)「何をどのくらい食べたらよいかー バランスのよい食事とはー」 川崎区役所保健課 兼 社 豊田美由紀氏	8名
②平成10年12月8日(木)「塩分・脂肪・カルシウムについて」 川崎区役所保健課 兼 社 豊田美由紀氏	6名
③平成11年3月19日(金)「脂肪についてーコレステロール、 中性脂肪を中心にして」 川崎区役所保健課 兼 社 豊田美由紀氏 「正しいブラッシングの仕方」 川崎区役所保健課 兼 社 上原美和子氏	2名

4 アルコール関連問題事業

(1) アディクションセミナー・シンポジウム

(10年度実人数 53名) \*平成9年度、5日間の人数  
(9年度実人数109名 延人数191名)

①平成11年2月26日(金) 午後1時30分～4時30分 シンポジウム 「アルコール問題に関する所属機関のやくわり・私のかかわり」 シンポジスト 多摩川病院 毛谷 和行氏 川崎メンタルクリニック 菊池 恭子氏 アルコールセンター 永倉 義尊氏 幸区役所保健課 山西みゆき氏 川崎区役所保健所 西川 洋一氏 精神保健相談センター 山中 達也	53名
---	-----

(2) アルコール家族教室

講師 大石クリニック 廣島奈美江氏 (10年度実人数17名 延人数56名)  
(9年度実人数16名 延人数85名)

①平成10年4月21日(火)「家族教室とは」	9名
②平成10年5月12日(火)「アルコール依存症とは①」	4名
③平成10年6月16日(火)「アルコール依存症とは②」	8名
④平成10年7月21日(火)「アルコール依存症者の心理」	5名
⑤平成10年8月18日(火)「家族のなかで起こっていること」	3名
⑥平成10年9月8日(火)「イネイブラーの問題①」	5名
⑦平成10年10月20日(火)「イネイブラーの問題②」	5名
⑧平成10年11月17日(火)「子どもの問題」	6名
⑨平成10年12月15日(火)「本人と家族の問題」	3名
⑩平成11年1月19日(火)「断酒後の生活」	4名
⑪平成11年2月16日(火)「再発と再飲酒」	2名
⑫平成11年3月16日(火)「まとめ」	2名

(3)アルコール家族教室連絡会 6回(隔月実施)

アルコールケアセンターたんばぼと「家族教室」に関する連携及び 情報交換を目的に隔月で連絡会を開催している。

(4)回復者による酒害相談

毎週水曜日に、アルコール依存症回復者による酒害相談を行っている。

- ・午前9時～11時30分 担当：川崎断酒新生会
- ・午後1時～ 3時30分 担当：AA川崎グループ

## 5 組織育成事業

(1)断酒会への参加

- ・独身者会 (11回) 延48名 (平成9年度 12回 延 77名)

(2)作業所運営委員会、事務局会議

- ・断酒会作業所
- ・サボン草作業所
- ・川崎マックアルコールケアセンター

## 6 調査研究

(1)調査研究事業

①川崎市健康福祉研究発表会

「アルコール予防教育に関する研究」

\*平成10年度川崎市健康福祉研究発表会表彰・優秀賞受賞

## 7 知識普及

- (1)広報事業 ①精神保健相談センターだよりの発行 1回200部印刷  
市内関係機関約120ヵ所送付  
市外関係機関約 60ヵ所送付(都道府県センター等)
- ②アディクションネットKAWASAKI発行  
③アルコール関連パンフレット(3種類)

- (2)第2回たかつアルコールケアセミナー(高津区社会福祉協議会主催)への協力  
平成10年11月14日(土)午後1時～4時 参加人数100名  
「アルコール問題と家族」  
家族からのメッセージ 当事者の立場から

「アルコールによる病みと回復」

講師：アスク・ヒューマン・ケア研修相談室長 水澤都加佐氏

- (3)第1回さいわい・アルコールセミナーへの協力  
平成10年9月5日(土) 午後1時～4時 参加人数100名  
「心の健康とアルコール問題」  
講師：アスク・ヒューマン・ケア研修相談室長 水澤都加佐氏  
川崎断酒新生会断酒会吉村作業所長 吉村 秀之氏

\*さいわい・アルコールセミナー実行委員会構成団体

川崎断酒新生会断酒会吉村作業所

幸福社事務所

幸区役所保健所

精神保健相談センター

(資料4) 京都市こころの健康増進センター事業実施状況

平成9年4月1日、本市の精神保健福祉に関する技術的中核機関として、こころの健康増進センターを開設した。

こころの健康増進センターは、精神保健福祉センターとしての相談援助部門及びデイ・ケア部門からなる施設と精神障害者通所授産施設とからなっている。相談援助部門においては、市民のこころの健康の保持増進を図るため、保健所による地域精神保健福祉活動への支援の他、関係諸機関に対する技術援助、精神保健福祉業務に従事する職員に対する教育研修、精神保健福祉に関する知識、精神障害者の権利擁護についての普及啓発、こころの健康に関する電話相談、来所による相談診察等の事業に取り組んでいる。また、精神障害者の社会復帰を促進するため、デイ・ケア部門においては、医学的な管理のもとに、様々な日常生活場面の経験を通じて社会参加に向けた準備に、通所授産施設においては、作業活動を通して就労に向けた援助に取り組んでいる。また、平成10年4月1日から通所授産施設に地域生活支援センターを併設している。

[主な事業実施状況]

精神保健福祉センター

1 相談援助部門

(1) 技術援助及び技術指導

区 分	H9	H10
関係機関指導、援助	140	77
講師派遣	13	15
関係機関実習、研修受入	13	13

(2) 教育研修

7 精神保健福祉相談員研修会

回	テ	マ	回	テ	マ
第1回	「こころの健康増進センターデイ・ケアの活動状況及び保健所との連携について」		第6回	「精神科リハビリテーションにおける作業療法の意義、役割について」	
第2回	「事例検討」		第7回	「個別及び集団での面接技術について」	
第3回	「地域におけるネットワークづくりについて」		第8回	「障害者の地域生活支援について」	
第4回	「セルフヘルプについて」				
第5回	「事例検討」				

イ 新任精神保健福祉相談員研修

回	テ	マ
第1回	市精神保健福祉施策について	
第2回	センター思春期相談の説明	
第3回	事例検討(23条, 24条)	
第4回	センター見学	

ウ 精神保健福祉相談員資格取得講習会

期 間	1月6日～3月11日	受講時間数 237時間
受講者数	28名(内市外8名)	
講習科目	社会福祉・臨床心理学 精神衛生行政・関連行政 精神医学概論 精神衛生 実習(病院実習, 訪問指導実習, 関連施設実習)	

エ 精神保健福祉業務関係職員研修会

テ	マ	講 師 (助言者)	対 象 者
[基礎コース] 精神障害者の理解—その疾病と障害の考え方— アルコール依存症とは 思春期のこころ		センター所長 山下 俊 幸 広兼医院 広 兼 明 京大病院 神 尾 陽 子	保健所精神保健福祉 相談員, 福祉事務所 職員他
[応用コース] 家族を支える視点とは—親類縁者の理解とアロ-ナの仕方 町医者者の日常の臨床の中から見えてくる薬物依存症		宇治児童相談所 柴 田 長 生 本谷医院 本 谷 研 司	
[事例検討コース] 近隣への迷惑行為を繰り返す許難のアルコール依存症者の事例		報告者 月川まゆみ・岡合裕子 パネリスト 井上幸久・今井たよか 山下俊幸(センター所長) 指定討論者 安東龍雄(安東医院)	

オ 社会復帰施設・共同作業所等職員研修

テ	マ	講 師 (助言者)	対 象 者
精神障害者の障害とは		岩倉病院 里 地 民 子	社会復帰施設等, 精 神障害者共同作業所 職員
就労支援を考える 職業安定所の専門援助部門では		センター所長 山下 俊 幸 西陣職業安定所 永 田 久 美 子	

カ こころの健康講座

テ	マ	講 師 (助言者)	対 象 者
地域で障害者と共に暮らす—地域生活を支えるネットワークづくり		援護寮支の芽ホーム 伊 藤 静 美	市民, 関係行政機関職員 関係医療機関, 福祉関係機関職員
アルコール関連問題に内科・精神科の連携のもとで取り組む		三重県立高茶屋病院 猪 野 亜 朗	

(3) 普及啓発

ア バンフレットの発行

名 称	主 な 内 容
京都市こころの健康推進センターだより 「きょうとこころの健康と福祉」	第4号 特集「地域で障害者と共に歩む」 第5号 特集「働きたい気持ちを形にしよう」 第6号 特集「セルフヘルプグループを知る」
こころの健康シリーズフレット	「ストレスQ&A」(一般向け)
思春期・青年期のこころの健康シリーズ	「どうして家から出られたか」

(4) こころの健康に関する相談、診察

ア 電話相談（月曜から金曜の午前9時～午後4時）

区 分	H9		H10	
	件数	比率(%)	件数	比率(%)
こころの健康相談	1,018	37.8	871	35.0
精神病圏	1,053	39.1	935	37.5
思春期	105	3.9	84	3.4
アルコール	64	2.4	82	3.3
老人性精神疾患	13	0.5	16	0.6
薬物	10	0.4	9	0.4
その他	427	15.9	494	19.8
合計	2,690	100.0	2,491	100.0

イ 来所相談（予約制）

区 分	H9		H10	
	件数	比率(%)	件数	比率(%)
思春期	139	31.2	237	34.7
こころの健康相談	138	30.9	53	7.8
精神病圏	87	19.5	190	27.8
アルコール	53	11.9	139	20.4
老人性精神疾患	7	1.6	15	2.2
薬物	1	0.2	0	0.0
その他	21	4.7	49	7.2
合計	446	100.0	683	100.0

ウ 医師による相談診察

月	H9	10	診察日
一 般	104	177	月、木曜日午前
思春期精神保健	96	96	火曜日午前
アルコール関連問題	38	26	水曜日午後
計	238	299	

(5) 組織育成

ア アルコール関係者研修会

テ ー マ	講 師（助言者）	対 象 者
「アルコール依存症とその回復」	竹村医院 竹村 隆太	断酒歴1年以上の 自助組織会員及び 家族、保健所職員等
「断酒会の観と酒類の心得・在り方」	京都府断酒連合会会長 西村 幹夫	
「自助組織に期待すること」	高島病院心理療法士 奥田 由子	

イ 酒害者家族教室等の開催

名 称	開 催 日
断酒平安会昼例会	水曜日午後
女性アルコール依存症者ミーティング	第2, 4月曜午後
アルコール依存症者家族教室	第1, 3月曜午後

2 デイ・ケア部門

(1) 利用状況

区 分	H9	H10
診察延人数	2,334	4,335
年度末在患者数	39	50

(2)在籍者数年齢別性別（10年度末現在）・年度別

7 年齢別性別

対象者の年齢	男	女	合計
～19歳	3	3	6
20～24歳	2	4	6
25～29歳	7	8	15
30～34歳	5	9	14
35～39歳	1	0	1
40～44歳	3	0	3
45～49歳	2	2	4
50歳～	0	1	1
合計	23	27	50
平均年齢			30.4

4 年齢別年度別

対象者の年齢	H9	H10
～19歳	5	6
20～24歳	5	6
25～29歳	13	15
30～34歳	6	14
35～39歳	2	1
40～44歳	4	3
45～49歳	3	4
50歳～	1	1
合計	39	50

(3)意見書診断名別年度別在籍者数

診断名	H9	H10
精神分裂病	26	40
うつ病・うつ前	1	-
非定型精神病	1	-
人格障害	-	2
神経症	9	6
精神遅滞	2	1
その他	-	1
合計	39	50

(4) 利用者の居住地別年度別

区分	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区	西京区
H9	3	2	3	2	-	2	4	6	8	4
10	4	3	4	2	3	4	4	5	11	3
	洛西	伏見区	深草	醍醐	市外	合計				
H9	1	3	-	-	1	39				
10	3	1	1	-	2	50				

(5)プログラム内容

音楽、陶芸、ワープロ、料理、スポーツ活動、対人技能訓練、就労支援等

(資料5) 広島市精神保健福祉センター・事業実績及び計画

1 センター事業

1999/5/25 相談課

年度		1999/5/25 相談課							
		11年度 (計画)	10年度	9年度	8年度	7年度	6年度	5年度	
区分									
技 術 指 導 援 助	保健所センター	#1 45回	#1 50回	#1 63回	#2 60回	60回	63回	28回	
	福祉関係	44	49	40	45	30	8	9	
	共同作業所	30	34	29	15	-	-	-	
	教育関係	26	23	26	35	48	37	18	
	行政機関・企業等	36	61	57	44	42	112	10	
		181	217	215	199	180	220	65	
教育研修		20回	#3 45回	#4 38回	#5 30回	38回	22回	12回	
普及啓発	講演会	18回	16回	26回	13回	10回	13回	9回	
	健康まつり等	5	4	3	6	6	7	8	
		23	20	29	19	16	20	17	
組 織 育 成	精神家族会	13回	20回	21回	7回	16回	25回	14回	
	老人家族会	10	9	10	18	9	10	3	
	共同作業所	1	1	2	1	2	23	7	
	アルコール関係団体	4	0	2	0	-	-	-	
		28	30	35	26	27	58	24	
相 談 指 導	電話	延人数	1,531人	1,525人	1,466人	1,184人	1,417人	1,175人	727人
		(1日平均)	(6.3)	(6.3)	(6.0)	(4.9)	(5.8)	(4.8)	(3.1)
	面接	延人数	365人	345人	357人	402人	464人	347人	1,201人
(1日平均)		(1.5)	(1.4)	(1.5)	(1.6)	(1.9)	(1.4)	(5.0)	
		人	1,896人	1,870人	1,823人	1,586人	1,881人	1,522人	1,928人
		(1日平均)	(7.8)	(7.7)	(7.5)	(6.5)	(7.7)	(6.2)	(8.1)

2 デイケア事業

年度		1999/5/25 相談課						
		11年度 (計画)	10年度	9年度	8年度	7年度	6年度	5年度
区分								
延人数	人	6,351人	5,909人	6,282人	6,843人	6,826人	7,236人	3,980人
(1日平均)		(34.9)	(32.8)	(35.1)	(38.2)	(37.7)	(40.0)	(24.7)

3 診療件数 (単位 件)

区分	8年度	9年度	10年度
初診	189	203	171
再診	4,402	4,173	4,323
計	4,591	4,376	4,494

4 平成12年度 精神保健福祉研修及び技術援助等計画

H12.3.22

	テーマ	対象者	回数	実施予定時期	担当課
教育研修	新任精神保健福祉 相談員研修 (デイ・ケア実習他)	新任精神保健 福祉相談員	1 (5課現)	5月～6月	デイ・ケア課 相談課
	精神保健福祉相談員研修 (講義・事例検討)	精神保健福祉相談員	5	6月～1月 (第1木)	相談課
	母子保健研修	保健福祉課等担当職員	2	7月・12月	相談課
	老人精神保健福祉研修	健康長寿課等担当職員	1	12月	相談課
	精神障害者訪問介護員 (ホームヘルパー)研修	ホームヘルパー	1 (9時間)	9月	相談課
	思春期精神保健専門研修	高等学校教職員	2	10月～11月	相談課
	(新)薬物関連問題研修	精神保健福祉相談員 福祉事務所職員 他	3	11月	相談課
	精神保健福祉入門研修	福祉事務所職員	1	6月	相談課
	ボランティア コーディネーター研修	ボランティア コーディネーター等	2	2月	相談課
	共同作業所 指導員研修	共同作業所指導員	3	5月～1月	デイ・ケア課 相談課
	精神科デイケア研修	精神科デイケア施設 職員	4	未定	デイ・ケア課
	ソーシャルクラブ 従事者研修	社会福祉協議会職員他	1	2月	デイ・ケア課 相談課
	技術援助	事例検討(保健センター)	精神保健福祉相談員	16	5月～3月
事例検討(保健センター)		健康長寿課保健婦等	8	5月～3月	相談課
社会復帰クラブ (保健センター)		精神保健福祉相談員	24	5月～3月	デイ・ケア課 相談課
ソーシャルクラブ (西区・安佐南区・安基区)		社会福祉協議会職員等	36	4月～3月 (毎月1回)	デイ・ケア課 相談課
共同作業所 (16ヶ所)		共同作業所職員	32	5月～3月	デイ・ケア課 相談課
組織育成	精神障害者家族会	精神障害者家族会	8	5月～3月	相談課
	痴呆性老人家族会	痴呆性老人家族会 (健康長寿課)	8	5月～3月	相談課
会議	地域保健医療福祉推進 連絡会議専門部会	保健センター	8	4月～3月	相談課
普及啓発	心の健康づくり大会	一般市民 共同作業所	1	10月24日	相談課
	あいあいスポーツ フェスティバル	在宅精神障害者 (共同作業所、ソーシャルクラブ、社会復帰 クラブ等に所属する精神障害者)	1	10月2日	デイ・ケア課
	精神保健福祉 ボランティア研修	ボランティア養成講座 受講終了者	5	6月～7月	相談課
	(新)薬物依存者家族の ための講座	薬物依存者の家族	3	11月～12月	相談課
	アルコール依存者家族の ための講座	アルコール依存者の 家族	1	1月	相談課

5 デイケア

開設日数・利用者数

区分		8年度	9年度	10年度	備考
実施日数		179日	179日	180日	
利用者	実人員	89人(43)	88人(47)	83人(58)	()は、前年度からの継続利用者の再掲
	延人員	6,843人	6,282人	5,909人	
1日平均利用者数		38.2人	35.1人	32.8人	
出席率		58.2%	56.7%	49.9%	
新規利用者数		46人	41人	25人	
終了者数		42人	30人	17人	
体験利用	実人員	56人	45人	40人	原則として4回の体験利用を実施
	延人員	243人	205人	111人	

診断名別状況

(単位 人)

区分	精神分裂病	非定型精神病	うつ病	そううつ病	ナ境界パーソナリティ障害	ナ他のパーソリティ障害	発達障害	摂食障害	器質的障害	対人恐怖症	神経症	計
10年度	59	1	1	2	2	10	1	1	1	2	3	83

家族のつどい参加状況

(単位 回、人)

区分	開催回数	参加延人数	平均参加者数
8年度	22	81	3.6
9年度	22	61	2.8
10年度	23	66	2.9

家族のための精神保健福祉講座実施状況

(単位 人)

実施年月	内容	講師	参加者数
平成10年 5月	病気の理解と治療	センター医師	14
7月	デイケア治療と社会復帰	センター医師	14
9月	家族としてできること、できないこと	センター医師	21
平成11年 1月	地域で支えていくための制度、社会資源	センターソーシャルワーカー及び作業療法士	18
計			67

OB会実施状況

(単位 回、人)

区分	開催回数	参加実人数	参加延人数	平均参加者数
8年度	21	37	238	11.3
9年度	22	45	202	9.2
10年度	22	28	199	9.0